

## 猫のフィラリア症について

### Q 検査で**早期発見**できますか？

猫のフィラリア症は、犬と異なり簡易な検査方法が確立されていないため、抗原検査・抗体検査・胸部レントゲン検査や心臓超音波検査などを組み合わせて総合的に診断しなければならず、早期の発見は困難です。

### Q 犬糸状虫が寄生している場合の**治療方法**は？

外科手術やお薬による成虫駆除が考えられますが、どちらも非常にリスクが高く有効な対処法は無いのが現状です。

### Q どのように**予防**したらよいですか？

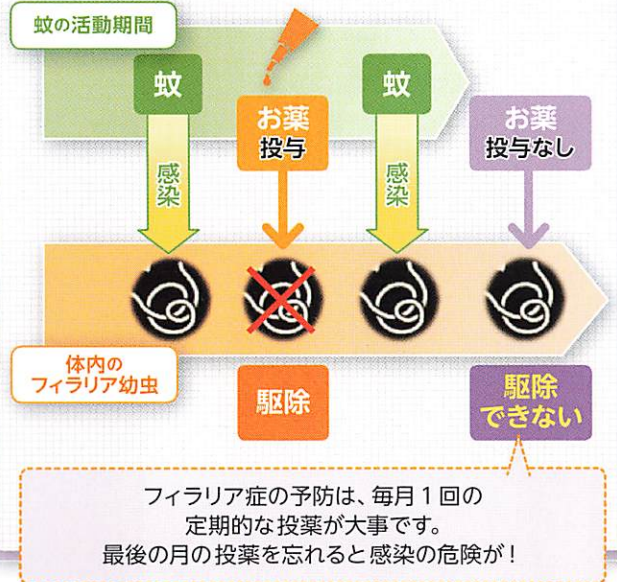
猫用のフィラリア症予防薬を**毎月一回定期的に投与**することで、感染を100%予防することが可能です。さらに、フィラリア症予防だけでなくノミやミミダニ・おなかの虫も同時に駆除でき、皮膚につけるだけで投薬できるタイプのお薬もありますので、かかりつけの動物病院にご相談ください。



猫フィラリア症だけでなく、ノミやミミダニおなかの虫にも効くお薬の参考情報がご覧になれます。



## 投薬スケジュール (イメージ)



当院推奨予防期間

月～ 月まで

猫の予防は、当院にご相談ください

バイエル薬品株式会社 動物用薬品事業部

〒100-8265 東京都千代田区丸の内1丁目6-5 [www.bayer-ah.jp](http://www.bayer-ah.jp)

1606-50000-CP-AC-006-AM

猫の飼い主様へ



「よく知らないから…」  
では済まされない

猫に**突然死**を引き起こす

# 猫フィラリア症



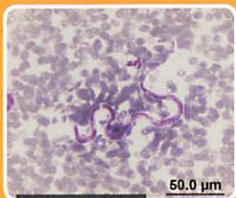
# フィラリア症とは？

犬糸状虫 (別名: フィラリア) という寄生虫が心臓や肺の血管に寄生することで引き起こされる病気です。

この寄生虫は、犬において『致死的な寄生虫病』としてよく知られています。

犬に寄生した場合、体内で成虫へと発育し血液循環不全など重度な全身性の障害の原因となります。

また、『マイクロフィラリア』という子虫を産み、それを蚊が吸血した際に血液と共に吸い込み、一定期間発育後、再度別の動物を吸血した際に伝播されます。



マイクロフィラリア



アカイエカ

犬以外にも猫や人も含む 43 種類以上の哺乳動物や鳥類 (ペンギン) への感染が知られています。コンパニオンアニマルとしては猫やフェレットでの病害が問題視されており、寄生予防の重要性が指摘されています。

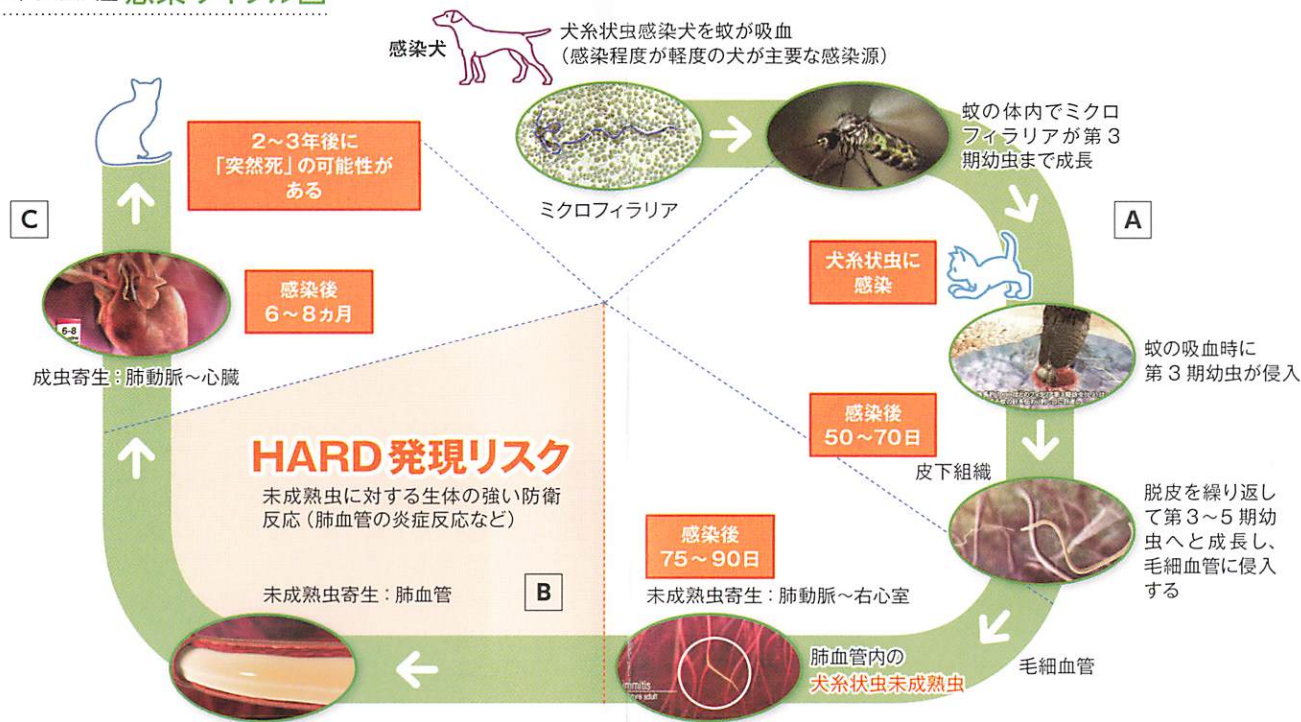


ネコ



フェレット

## 猫のフィラリア症 感染サイクル図



## Q どのように猫に感染するのですか？

犬糸状虫の幼虫を持った「蚊」が猫を吸血した時に、蚊の刺し口から皮膚に侵入して感染します(図:A)。感染した幼虫のほとんどは発育途中で死滅しますが、一部の幼虫は血管に入り、血液の流れによって肺や心臓にまで到達し、組織障害<sup>\*</sup>を引き起こします(図:B)。

成虫にまで発育すると2~3年は生存しますが、虫体が死滅すると血管に詰まり「猫の突然死」を招くとされています(図:C)。

猫の心臓に寄生した犬糸状虫



## Q どんな症状が見られますか？

犬糸状虫に感染した猫のほとんどは無症状のまま過ごすことが多いのですが、ある日突然元気がなくなり、呼吸が荒くなったり「咳」や「吐き気」を示すことがあります。軽い咳を以前から慢性的にしている場合は要注意です。

「吐き気」を主訴に来院した7歳・日本猫



症例提供: 星 克一郎先生 (見附動物病院: 新潟県見附市)

<sup>\*</sup>犬糸状虫の未成熟虫に対して強い防衛反応 (肺血管の炎症反応など) が起こり、これを「犬糸状虫随伴呼吸器疾患: HARD」と呼びます。

喘息あるいはアレルギー性気管支炎様の咳を示すことがあります。